

带状疱疹定期予防接種について

带状疱疹は痛みを伴う皮膚の病気です。また、带状疱疹ワクチンには2種類のワクチンがあり、それぞれのワクチンの特徴や予防効果、安全性などの詳細については、別紙「厚生労働省のリーフレット」をお読み下さい。

●予防接種を受ける前に注意すること

【予防接種を受けることができない人】

◎生ワクチン・組換えワクチン共通

- (1) 接種の当日、明らかに発熱のある人（体温が37.5度以上の人）
- (2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 過去に接種液の成分によって、アナフィラキシー(*)を起こしたことが明らかな人

(※)「アナフィラキシー」というのは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗・顔が急に腫れる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気・嘔吐・声が出にくい・息苦しいなどの症状に続き、ショック症状になるような激しい全身反応のことです。

- (4) その他、医師が予防接種を受けることができないと判断した人

◎生ワクチン

- (1) 先天性及び後天性免疫不全状態の人
例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV感染又はAIDSによる免疫抑制状態、細胞性免疫不全など
- (2) 副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人

【以下の人は、予防接種前に必ず担当医師に相談してください】

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- (2) 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人
- (3) 過去にけいれんを起こしたことがある人
- (4) 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- (5) 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こすおそれがある人
- (6) 生ワクチンの接種を希望される場合、輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3ヶ月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6ヶ月以上の間隔を開けて接種してください。
- (7) 組換えワクチンの接種を希望される場合、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

●接種後の注意

- (1) 接種後は自らの健康管理に注意し、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気付いた場合は、速やかに医師の診療を受けてください。
- (2) 接種当日は激しい運動を避けてください。
- (3) 接種当日の入浴は差し支えありません。ただし接種した箇所をこすらないでください。